



平成10年2月4日  
日本原子力発電株式会社

### 敦賀発電所1号機のタービングランド蒸気復水器の不具合について

当社、敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉：定格出力35万7千Kw）は、平成9年10月25日に発電を停止し、制御棒の不具合により原子炉停止中ではありますが、平成10年2月3日早朝、タービングランド蒸気復水器のドレン量の増加が認められ、当該伝熱管の漏えいと推定されたことから、タービングランド蒸気復水器の点検を実施しました。

なお、この事象による周辺環境への放射能の影響はありません。  
タービングランド蒸気復水器の伝熱管の漏えい検査の結果、伝熱管1本に貫通孔が認められました。

引き続き、調査を継続することとします。

以上

（通産省のINES\*による暫定評価）

基準1	基準2	基準3	評価レベル
評価対象外	評価対象外	評価対象外	評価対象外

\* INES：国際原子力事象評価尺度

#### 【用語解説】

・タービングランド蒸気復水器とは復水器の真空を維持するために、タービン車軸とケーシングとの間をシールする蒸気をタービングランド蒸気という。ランド蒸気復水器は、この蒸気を復水を用いて冷却し凝縮させ、復水に対しては復水温度を上昇させ、熱効率を上げるための装置である。